

JAICOH フォーラム 2000

これからの国際歯科保健医療協力

2000年11月12日

ホテルパシフィック

歯科保健医療国際協力協議会

(JAICOH)

プログラム

総合司会：田中健一（JAICOH 理事）

1)開会（13:30）

2)会長あいさつ

深井穫博（ネパール歯科医療協力会，JAICOH 会長）

3)講演（13:40 - 14:40）

座長：阿部智（JAICOH 理事）

・ NGO の立場での途上国での国際協力 - モンゴルでの経験 -

黒田耕平 先生

（日本モンゴル文化経済交流協会，神戸生協協同歯科，JAICOH 副会長）

・ JOCV の活動から得たもの - ブータンでの経験 -

原田祥二 先生（北海道ブータン協会，小樽市開業，JAICOH 理事）

4)交流会（14:50 - 16:30）

司会：小原真和（JAICOH サポートメンバー）

乾杯

参加者（団体）紹介

5)閉会

会長あいさつ

JAICOH フォーラム 2000 「これからの国際歯科保健医療協力」へようこそ

深井 穂博

(ネパール歯科医療協力会, JAICOH 会長)

自らの持てる力を社会のために還元することは、専門家にとってこの上ない喜びであり、同時に責務でもあります。国際保健医療協力の現場は、異文化のなかで、このことを実感できる場であり、自らの力を自覚することができる機会です。現在、わが国では口腔保健の分野で多くの団体や個人が実績をあげ、またこれから活躍の場を海外に求めている人々がいます。しかし、これらが交流し、互いを理解し、さらに共存し高めあう場はそれほど多くはありません。今回のフォーラムの意図は、現在国際保健医療協力を携わっている団体や個人の、まず交流を図ることにあります。事前に本会会員や関係各位にご案内したところ、多くの方が参加を申し出て下さいました。あらためてご参会の皆様にご挨拶申し上げます。

さて、本会 JAICOH は、「歯科の国際保健医療を語る会」を前身として、1990 年の 9 月に設立されました。設立当初は、歯科保健の分野の国際協力に関心をもったり、すでに活動されている個人や団体が集い、情報交換などを行なう場として発足しました。しかしその後、個人や団体の連絡協議会という役割から徐々に変化し、カンボジア、ソロモン、ミャンマーなどで会独自に国際協力活動も行ないながら今日にいたっています。また、本会の特徴としては、シーズプロジェクト、学生のスタディーツアーへの協力など、これから活動を開始される人々の育成にも力を注いできました。会が発足した 10 年前と比較して、歯科保健の分野での国際協力の現状をみると、すでに多くの団体や個人が NGO として活動し成果もあげています。また、JOCV 青年海外協力隊や JICA での経験のある歯科医師、歯科衛生士も多く生れ、JICA や国立国際医療センターなど公的な機関に歯科医師が勤務しています。

今後の JAICOH に求められる役割としては、(1)国際協力活動を行なっている団体や個人の連絡協議と交流、(2)各個人や団体の活動への支援、(3)海外への活動に興味を持ち、これから活動したいと考えている人たちへの支援と情報提供、の 3 点があると考えられます。今回の企画の意図が達成されたか否かは、今後の皆様のご叱正と参画で明らかにされることと思いますが、このフォーラムを通して、皆様と共に手をつなげるような「新たな第一歩」になれば幸いです。今後とも本会の役割が達成できますようご協力をお願いいたします。

2000 年 11 月 12 日

講演抄録

「モンゴルでの国際歯科医療交流」

黒田耕平

(日本モンゴル文化経済交流協会, 神戸医療生協協同歯科, JAICOH 副会長)

経歴; 1980年 3月 大阪大学歯学部卒、同4月小児歯科学講座入局
1983年 4月 神戸医療生協 協同歯科 小児障害児歯科医長
10月 岡山大学歯学部小児歯科学講座非常勤講師
1995年 神戸医療生協 協同歯科所長
1998年 神戸医療生協 歯科部部長
現在、日本小児歯科学会評議員、JAICOH 副会長、ひょうご食の研究会幹事、
近畿地場野菜応援団監事 等

はじめに; 「なぜモンゴルなのか?」「きっかけは何?」

モンゴル概説;

1. 地図
2. 人口...約238万人、面積156万平方キロ(日本の約4倍)
3. 産業...牧畜(遊牧、5畜、草原)、地下資源(ソビエト時代の資源提供国)
4. 気候...凍土、大陸、高山、緯度、草原と砂漠
5. 経済状態...1ドル=1000トグル、インフレ(バス代'91-'99で約400倍)、
歯科医の給料(公務員で月25000~35000トグル)
6. 食生活...2000年来遊牧(肉・乳製品)、1970年代からロシア式都市定住生活
7. 歯科事情...歯科医師数約400人、都市部に集中、開業医('91に1軒 99ウランバートルだけで70軒を越す)、機材は輸入、旧式、不足、高価

我々の活動記録;

1. コンセプト; モンゴル人自身によるモンゴル人のための活動、健康の維持・増進
2. これまでの歩み; 一步前進二歩後退の時期、診療室開設の理由と苦労
歯科疾患実態調査と保健予防活動、セミナー、エネレル
3. これまでの成果、到達点; 10年間の経過と成果、継続した理由
4. 大学との交流; 当初は厚生省と医科大学との交流、
できることとできないこと、1994年交流協定締結
5. 歯科診療室「エネレル」の立ち上げと交流経過;
1994年4カ所目の歯科診療所「エネレル」開設、
ハードとソフト、日本での研修とモンゴルでの研修
6. 今年の活動; 「予防プロジェクト」、21県の歯科医師、エネレルスタッフ
行政・メディアとの協力、歯科疾患実態調査

おわりに; 歯科医療からの国際交流; 可能性の大きさと楽しさ

国際医療協力は援助ではない; 逆に学ぶ、もらうことの多さ

我々の思いとモンゴルの人たちの思い; 人と人との心の交流を大切に

JOCV の活動から得たもの - ブータンでの経験 -

原田祥二

(北海道ブータン協会, 小樽市開業, JAICOH 理事)

経歴; 北海道大学歯学部卒業後、第一口腔外科医局所属

平成3年から5年まで、青年海外協力隊としてミクロネシア連邦ヤップ州にて活動

平成7年から8年まで、青年海外協力隊短期緊急派遣としてブータン王国にて活動

平成11年12月小樽市にて開業

平成12年4月JAICOH理事

平成12年6月北海道ブータン協会会長

演者は、平成7年から1年間、青年海外協力隊短期緊急派遣隊員としてブータン王国にて活動して来た。その経験を踏まえ、ブータンでの歯科医療の現状の概要を報告する。

ブータンは、面積 46,500⁼⁼、人口 60 万人 (1991 年) であり、ヒマラヤ山脈の東端の南斜面に、北は中国チベット自治区と、南はインドと国境を接して位置している。

国土は東西に約 300⁼⁼、南北に 170⁼⁼で、北は 7,000⁼⁼級を連ねたヒマラヤ山脈の主稜線から、南は海拔 200⁼⁼程のインド平原まで、その標高差は 7,000⁼⁼を越える。

保健医療行政は保健教育省保健局によって行われており、1996 年現在、国内 20 の県に、26 の病院、84 の B H U (Basic Health Unit ; 基礎保健所) を設置している。演者が活動していたジグメドルジワンチュック国立病院 (JDWNRH) は首都ティンブーにあって、ベッド数 200 床、医師数約 30 名、看護スタッフ約 80 名の国内最大の規模であり、1 日の外来受診患者数は 500 人を越える。ここを頂点に、2 つの地方拠点病院、県病院、B H U が順に置かれ、それぞれの医療施設で治療不可能な患者は、より質的に優れた医療を供給できる上位の医療施設へ搬送、紹介される制度となっている。医療施設はすべて国または公の機関によって運営されており、医療費はすべて無料である。WHO、ユニセフなどの援助によって首都に設立された国立保健医療専門学校では、医師、歯科医師、薬剤師以外の医療スタッフが養成されているが、絶対数は不足している。医師の約三分の一は外国人医師であり、WHO、国連ボランティア医師らが、ブータン人医師とともに診療にあたっている。医師、歯科医師の養成機関は国内に無いため、インドなど国外の教育機関で養成されている。

歯科は病院の診療科のひとつとして病院に併置されている。8 名の歯科医師 (人口 10 万対 1.33)、19 名の歯科衛生士、9 名の歯科技工士が、全国の 18 病院歯科に勤務している。JDWNRH 歯科外来には、3 名の歯科医師、4 名の歯科衛生士、3 名の歯科技工士がおり、1 日約 50 人の外来患者の診療にあたっている。齲蝕、歯周炎が受診患者数の 9 割を占めており、顎骨周囲炎などの歯性炎症、顎骨骨折、腫瘍、粘膜疾患などの症例もわずかながら認められた。処置内容としては、投薬、充填、抜歯、義歯作製などであった。地方病院においては、5 病院では歯科医師が勤務しているが、11 病院では歯科衛生士のみが、1 病院では歯科技工士のみが診療にあたっている。歯科医師が勤務していない施設での治療内容は、歯石除去、投薬、充填、抜歯がほとんどである。

ブータンの医療政策においては、人口政策、感染症対策、予防接種などに重点が置かれ、歯科医療の優先順位は決して高いとは言えない。機材、器具、人材においても、また口腔衛生教育という点においても、十分とは言えないブータンでの歯科医療の現状を経験してみると、これからも援助協力の余地は大いにあるし、また、必要とされてもいる。何らかの方法で実現出来ないものかと模索している。

役員紹介

歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）役員（2000年4月～2002年3月）

- 会長： 深井穫博（ネパール歯科医療協力会，三郷市開業）
副会長： 眞木吉信（東京歯科大学衛生学講座）
 黒田耕平（日本モンゴル文化経済交流協会，神戸生協協同歯科）
理事： 時田信久（南太平洋医療隊，坂戸市開業）
 夏目長門（日本口唇口蓋裂協会）
 原田祥二（北海道ブータン協会，小樽市開業）
 平居夕紀子（ネパール歯科医療協力会）
 柴田享子（DHネットワーク）
 鈴木基之（昭和大学歯周治療学講座）
 小宮愛恵（国立公衆衛生院専門課程）
 宇野公男（多磨全生園）
 田中健一（歯科医師）
 阿倍 智（東京医科歯科大学大学院）
 白戸 洋（松商短大）
 羽中田元美（歯科ペンクラブ）
監事： 金澤紀子（日本口腔保健協会）
 村居正雄（長野県上田市開業）